

## 古道調査・旧秩父往還（落合～宮平～大久保～鶉平）下見調査報告書

2022. 5. 30

日 時 : 令和4年5月21日（土曜日）、小雨・曇りのち夕刻雨

令和4年5月29日（日曜日）、晴れ

メンバー : L. 松本敏夫、山崎保夫、浅田 稔、宮崎 稔、本村貴子、渡邊嘉也、東 洋子  
（計7名）

コース記録 :

道の駅・大滝温泉駐車場(9:10 出発)～普寛神社(鳥居の左が旧秩父往還)(9:17)～旧道から国道140号に合流(9:20)～大滝総合支所旧庁舎(9:23)～落合橋(9:28)～平神社(9:29)～宮平バス停(9:35)～鶉平バス停・ゲートボール場(9:45)～林道入口(旧秩父往還の入口?) (9:52)～林道分岐(10:02)～林道から山道(荒廃した秩父往還と推測)(10:10)～側溝状の排水溝(10:15)～林道(秩父往還を作業道に拡幅した道と推測)(10:19)～林道が十文字に交差する地点(10:21)～林道から山道(本来の秩父往還と推測)(10:25)～左側に苔むした石垣(10:39)～別の石垣(10:47)～車道に道標「秩父往還・至落合ー至栃本」(11:02)～車道の向かい側に東屋(滝沢神社及び龍泉寺)(11:04ー11:35)～車道を国道140号・鶉平方面に下ると杉林が伐採されて小双里及び旧大滝小学校方面の展望あり(11:40)～分岐・道標「秩父湖・三峰山・栃本ー中津川・奥秩父もみじ湖」及び「彩の国・埼玉県立大滝げんきプラザ」(12:06)～分岐・国道140号道標「甲府ー長瀬・秩父」(12:40)～旧大滝小学校(12:44)～鶉平バス停(12:49)～地藏尊・二十三夜塔及び二十二夜塔(12:52)～そば処・紺屋(12:58ー14:00)～巳待供養塔(14:08)～水神社(稲荷神社と八坂神社が合祀)・石仏石碑群(14:20)～東京電力パワーグリッド(株)鶉平変電所(14:30)～落合橋(14:35)～道の駅・大滝温泉(15:00)

### 記録

日本山岳会創立120周年記念事業の古道調査として、令和3年6月に二瀬ダムから秩父往還に登り、大久保地区から宮平に下り、落合へと続く旧秩父往還の実地調査を行いました。しかしその際には、大久保地区の龍泉寺・滝沢神社から道標「秩父往還・至落合ー至栃本」に従い宮平に下る途中で秩父往還が林道(作業道)に変わってしまい、更に林道が消失していて秩父往還を辿って宮平に至れませんでした。詳細は古道調査・秩父往還(二瀬～大久保～宮平)下見調査報告書に掲載済みです。また、強石から落合までの調査は、古道調査・秩父往還(三峰口駅・巢場新道～強石～杉ノ峠～落合)下見調査報告書を参照ください。そこで今回は、大久保から宮平(落合)間の未調査区間を再確認するために、落合から宮平を経由して出来るだけ秩父往還の旧道を確認しながら大久保地区の龍泉寺へと登り、帰路は車道を西に下って国道140号(通称・彩甲斐街道)沿いの鶉平を経由して、宮平及び落合に戻るコースを実地調査することとしました。

新編武蔵風土記稿・秩父郡（以下風土記稿）の新大瀧村の条に「此村はかかる山谷の間にて畑も少なければ、嵯峨たる高處に火耕の地をひらき、是をさすと云ひ、或は焼畑と呼べり、・・・新大瀧村は四組に分ちて、強石組・落合組・小雙里組・八組と称し、・・・八組と云へるは地名にあらず、八區を併せて一組に結び、・・・八區とは三十場・槌打・鶉平・柵平・十々六木・瀧ノ澤・濱平・鹽澤を云ふ、・・・一は八組の内柵平にて、中津川に架せり、獨木橋にて長さ十二間、」とあります。大瀧村は耕地には適さない山間の地のため焼畑を行っていたことが記されていますが、中津川沿いには、小双理、中双理の「ソリ」や白井差峠を越えて小鹿野町（両神山方面）に下った白井差の「サス」などは「焼き畑」を表す言葉として知られ、かつての名残を現在の地名に留めています。また、旧秩父往還が柵平で中津川を渡る際には獨木橋（丸太橋？）を利用していたことが記されています。

小雨模様の好ましからぬ天候でしたが、秩父鉄道・三峰口駅で一部の参加者と合流し、道の駅・大瀧温泉駐車場に全員が集合しました。休日にもかかわらず、天候も悪いためか、駐車場に車が少なかったのは幸いでした。大瀧温泉から落合の普寛神社までは歩道のない国道140号の脇を歩きますので、交通量が多い時の車やバスなどには十分に注意が必要です。普寛神社の赤い鳥居の左側に旧秩父往還が残っていますが、数分歩くと国道140号に合流し、合流点の左側に大瀧郵便局があります。



普寛神社と左が秩父往還



秩父往還の現在



国道140号と合流

大瀧総合支所旧庁舎（旧大瀧役場）が国道の右側にあり、「おおたき閉村の碑」、如意輪観音の浮彫石像及び得大勢至尊の石仏が並び「大瀧村道路元標」が旧庁舎の前に残されています。大瀧村誌に「月光院の念仏鉢（村指定文化財） 落合地区にあった月光院（現在の村役場の位置）の什物。径23.5cm、高さ9.3cm。裏面外縁の『為武田信玄大僧正三回御忌菩提奉納』、また風土記稿には「月光院 落合組にあり、閻王山と號す。曹洞宗にて下飯田光源院末なり、・・・本尊釈迦、開山愚禪、寛永四年四月廿六日寂せり。」とあり、旧庁舎には武田信玄所縁の江戸時代から続く月光院があったことが分かります。しかしこの間も国道140号に歩道は設置されておりません。



おおたき閉村の碑



如意輪観音と得大勢至尊



大瀧村道路元標

旧庁舎の向かい側は荒川橋で、橋の上から東京発電(株)宮平発電所が確認できます。ここからは国道の左側(荒川に沿って)に歩道があり、ロックシェッド(落石防止のために道路を覆う構造物)を過ぎると前方に黄色いガードレール(欄干のようにも見えますが?)が設置された落合橋が見えてきます。歴史の道調査報告書・秩父甲州往還に「現在の落合橋の手前で、中津川沿いの道を少し廻り、中津川を渡る。この辺りの道は消失している。」と記されています。中津川を越える場所は、風土記稿に記載の「獨木橋」があった場所(柵平)と同一なのか未確認です。



大滝総合支所旧庁舎



宮平発電所



ロックシェッド

落合橋で中津川を渡ると T 字路交差点の手前左側の薄暗い杉の樹林の中に平神社の鳥居と社殿が南西向きに建てられています。魍魎魍魎でも現れそうな様相ですが、「秩父往還いまむかし」には「落合橋で中津川を渡ると宮平で、すぐ左に平神社がある。三峰神社のミニ版ともいわれ、元は妙見様が祀られていた。上舎の中の本殿は、竜や鶴などの彫刻がほどこされた立派なもの。」と記されています。笠木と控え柱を備えた年代物ではありますが立派な白木の明神鳥居には「平神社」の扁額が掲げられています。社殿内部の本殿の前面上部にはかつては極彩色であったと想像される鶴と龍の彫り物が「秩父往還いまむかし」の記載を裏付けています。風土記稿・新大瀧村の条に「妙見社 同所(落合組)にて村民持下同じ、これは同所及び三十場・土打・柵平の鎮守なり、例祭二月廿三日」の記載があり、かつては土地の人々の篤い信仰に支えられた神社(妙見様)であったことが想像されます。



落合橋



平神社の鳥居



平神社の社殿

二瀬ダムと中津川方面との分岐 (T 字路交差点) を右折し、中津川に沿った国道 140 号には右側に歩道が設けられています。東京電力(株)櫛平変電所を過ぎると櫛平バス停があり、国道 140 号の向かい側の奥がゲートボール場 (バスのロータリー横) です。



二瀬ダムと中津川との分岐



櫛平バス停



旧大滝老人福祉センター

左側の山裾にある林道入口 (秩父往還入口?) から登り始めますが、道標は設置されていませんので地図での確認が必要です。国道 140 号を挟んで向かい側に旧大滝老人福祉センター及び大滝温泉・三峰神の湯温泉スタンドがあります。



秩父往還 (林道) 入口



眼下にゲートボール場



登山口からすぐの林道

林道入口は金網フェンスと土留め柵が設置された道幅 1~2m の林道があり、道標はありませんがここが旧秩父往還の入口 (林道入口) と推測されました。一面に雑草が覆いつくし、足場の不安定な砂利道の林道をジグザグに進むと、樹林に覆われた日影の道に質素な白い花を咲かせた多くのフタリシズカが見られます。林道を左側に大きく折り返して進むと、杉の植林帯の中に上下 (水平か上に登るか) に分れた林道分岐があります。ここは水平方向 (下段) の林道を選択します。



フタリシズカ



林道分岐



林道から山道（古道？）へ

「秩父甲州往還」に記載の秩父往還の道筋よりも少し北側から旧道に取りつきましたので、林道から秩父往還の旧道に合流することを期待して進みました。しかし途中から林道が狭い山道へと変わり、更に踏み跡になると前方に長さ十数メートルもあろうか沢沿いに金属製のU字溝状の排水溝（幅20センチメートル程度）が現れます。昨年（令和3年）6月に下見調査した際に、林道終点で確認した雑木林に覆われた排水溝であることがすぐに判かりました。そのためこの排水溝を越えれば、龍泉寺へと続く秩父往還に至ることが確信できました。注意して見ると赤テープが所々にありますが、倒木があり、崩れやすいザレ場状の踏み跡を数十メートルの間、注意深く越えると林道に出ました。秩父往還の旧道がザレ場のために崩壊したのち、僅かな登山者が歩いてできた踏み跡と考えられます。林道入口と旧秩父往還の入口は少し異なるものと考えられますが、林道から山道へと違和感なく続くことから、旧道の場所に林道が造られたものと推測されます。また、林道の一部は、秩父往還を植林や木材搬出のための作業道に拡幅した道ではないかと思われます。



排水溝を越える



林道に出る



林道調査風景

前回の調査時に確認済ですが、林道が十文字に交差する地点がありますが、標識はありませんがここを直進するのが秩父往還です。ほぼ水平につけられた道を進むと、この先で林道から道幅の狭い山道へ変わり、多少のザレ場はありますが、この道が本来の秩父往還の旧道と推測されます。しばらく水平方向に進むと左側に苔むした石垣（高さ1.5m、長さ10m程度）が出てきます。飯野頼治著「秩父往還いまむかし」に石垣の傍に二本の桂の木がそびえ、その根元から湧水が流れていたと紹介されている「弘法の一杯水」と推測されます。しかしさらに進むと先ほどより高さの低い別の石垣が現れ、また桂の木も確認できず、どちらが「弘法の一杯水」が判断できません。「秩父往還いまむかし」には、「この一帯は『コショウ』と呼ぶことから、この峠道もコショウ坂というようになったらしい。」との記載があります。旧道らしい雰囲気が残る場所でした。比較的道幅の広い歩きやすい緩やかな坂を登ると前

方が明るくなり車道に出ます。



秩父往還を下る



秩父往還を下る



苔むした石垣

車道の端に比較的新しい道標「秩父往還・至落合―至栃本」が設置され、その奥に送電線の鉄塔が聳えています。車道の向かい側は滝沢神社及び龍泉寺（ふるさとの丘公園として整備）で、滝沢ダム建設に伴い水没する地区から移設された石碑石仏群が整然と並べられていました。向かい側は東屋となっていて休憩所として最適です。

櫛平から龍泉寺間の旧秩父往還は、新しい林道（作業道）ができた上に、排水溝附近のザレ場の通行は読図力の必要性和多少の危険を伴うため、この区間は一般の古道歩きを趣味とする人達には推薦できないと判断しました。そこで櫛平から龍泉寺に至る道は、中津川のループ橋方面を経由する車道に迂回することを提案する予定です。



秩父往還の道標



龍泉寺及び滝沢神社にて



石碑の一例

龍泉寺から右側（谷側）にガードレールが設置された車道を国道140号（彩甲斐街道）・鶉平方面に下ると、中津川側の杉林が一部伐採されていて、小双里及び旧大滝小学校方面の展望が開けています。大瀧村誌に「小学校の運動会 昭和20年以前は、体育祭を『運動会』とっていた。当時は鶉平に本校（現在の旧大滝小学校と考えられます。）があり、光岩・上中尾・中津川・中双理・三峰に分教場が設置された。」と記されていますが、平成13年までに分校が順次閉校となり大滝小学校一校のみとなったとのこと。明治43年測図5万分の1地形図「三峰」には大久保地区から直接山腹を下って鶉平に至る道が確認できますので、大久保の子供たちは遥か下方の鶉平まで山道で小学校に通っていたものと思われます。車道が開通した現在はこの通学路も消失したものと考えられます。

しばらくならぬかに車道を下ると分岐があり、道標「秩父湖・三峰山・栃本―中津川・奥秩父もみじ湖」及び「彩の国・埼玉県立大滝げんきプラザ」などの標識が設置されています。左折する車道は滝沢ダムや奥秩父もみじ湖の南側を通る道です。ここを直進して滝沢ダム

の巨大な壁の手前にある大滝大橋（ループ橋）直下に至り、車道は東に 180 度方向転換して鶺平方面に向います。ループ橋の巨大な橋脚を眼前にして、圧倒される感じを受けました。



車道から小双理を望む



車道をループ橋方面へ



奥秩父もみじ湖分岐

中津川を太平橋で渡ると T 字路で国道 140 号に突き当たります。正面に道標「甲府ー長瀬・秩父」があり、ここを秩父方面に右折すると、国道の左側に狭い歩道が設置されていました。国道に面した家々は雨戸が締め、空き家が多数確認できるのが寂しさを感じさせます。風土記稿・中津川の条に「里老の傳へにも此村は往古覺範入道草創の地にて、鎌倉將軍の頃は、當所五里四方の所を狩場に賜はり、諸役免除せられしよし、其後遙の年を経て、鉢形の城主北條氏邦の領地となりし頃も、斯る邊鄙の谷間にて、牛馬の通路もなき険陋の土地なれば、諸役は免除せられしよし、・・・」と記され、中津川沿いの道は古くから甲州・信州への交易や信仰の道として利用されています。一方、大滝村誌には「中津川村は、地元の伝承によると、幸島家の初代・幸島覺範入道が元久二年（1205）に土着して開発した土地である（幸島家「鉾山記録）」という。」と記されていますので、中津川流域は鎌倉時代以前より開けた地域であることが分かります。



ループ橋の傍を通過



国道 140 号に合流



国道を落合方面に進む

旧大滝小学校は四階建ての比較的大きな校舎で、広大な大滝村に散在した小学校が統廃合され、この小学校が地域の中心地であったことが推測されます。校舎前の校庭（運動場？）はヨロズ国産木材の木工加工場と化していますが、校庭の奥には、校訓（開校百年記念）、統合記念碑及び閉校記念碑などの大滝小学校の歴史を刻んだ記念碑が雑草に覆われながら並んでいました。



旧大滝小学校



閉校記念碑



鶺平バス停

鶺平バス停を過ぎると左側の小さな建屋の中に地蔵尊及び二十三夜塔（明治三十六年九月廿三日）が設置されています。更にその右横に二十二夜塔（慶應二年？）がツタに絡まれて佇んでいました。大滝村誌に石仏所在一覧表（平成18年12月調査）があり、鶺平は22・23夜塔・巳待塔などが11基と他の地区（各々数基）に比較して圧倒的に多く、日待・月待信仰が盛んであったことが分かります。国道の左側にあるそば処の看板に誘われて「そば処・紺屋」で遅い昼食となりました。



地蔵尊及び二十三夜塔



二十二夜塔



そば処・紺屋

国道に戻り左側の巳待供養塔（宝暦二年？）を過ぎると中津川に架かる水神橋の手前に神社（稲荷神社と八坂神社が合祀されていますが主祭神は水神社）があります。飯野頼治著「地図で歩く秩父路」には「櫛平の水神社」と紹介されています。境内の右側に馬頭尊（大正十三年五月）、大黒天（弘化四年？）、日待塔（文政元年？）、二十二夜塔（明治？）、南無阿彌陀仏石塔などの石仏石碑群が並んでいます。また、神社の左側に古い石の道標があり、「左ハ大久保ニ至ル、右ハ櫛平ヲ経テ中津川ニ至ル；大正十一年一月大瀧村；勅諭下賜四十□□」などの文字が三面に確認できます。近くに住む地元の方の話では、「道標は中津川街道が新しく改修された際に、大久保に登る道との分岐にあったものをここに移設したもの。」とのこと。かつて大久保に行く際に利用した道らしく、途中で旧秩父往還に合流すること、「大久保から鶺平の大滝小学校に直接下る通学路も、櫛平の子供達は大久保の子供たちと一緒に大久保まで遠回りして帰ったことがある。」と話していました。





巳待供養塔



水神橋の手前に水神社



石仏・石碑群

国道右側の東京発電(株)水力発電所改良工事宿舎、旧大滝老人福祉センターを過ぎると間もなく落合橋を渡り、大滝郵便局の横から旧秩父往還に入り落合(普寛神社)に戻ります。



道標



東京発電(株) 改良工事宿舎



大滝郵便局

新緑が真っ盛りの季節でしたが、龍泉寺から鶉平に下る車道の脇には草木の花が溢れています。確認できた草木は、チチブドウダン、ミヤマキケマン、クサノオウ、フタリシズカ、ノコギリソウ、ツタアジサイ、コゴメウツギ、バイカウツギ、ヒメウツギ、ホオの花、トチの花、ニセアカシアの花などです。また、キセキレイ、ホオジロ、シジュウカラ、ガビチョウ、ツバメなどの鳥を見かけ、季節に応じた自然が感じられる調査でした。

#### 参考資料

- 古道調査・秩父往還（二瀬～大久保～宮平）下見調査報告書
- 古道調査・秩父往還（三峰口駅・巢場新道～強石～杉ノ峠～落合）下見調査報告書
- 歴史の道調査報告書・第11集・秩父甲州往還（編集・埼玉県教育委員会、埼玉県立博物館）、発行・埼玉県県政情報資料室、平成二年四月発行
- 大日本地誌大系、新編武蔵風土記稿（第12巻）・秩父郡・古大瀧村及び新大瀧村（雄山閣）、昭和四十六年二月二十五日発行
- 明治43年測図5万分の1地形図「三峰」
- 大滝村誌、編集・秩父市大滝村誌編さん委員会、発行・秩父市、平成二三（2011年）三月三十一日発行
- 飯野頼治著「秩父往還いまむかし」（さきたま双書）、平成11年2月25日発行
- 飯野頼治著「地図で歩く秩父路」（さきたま出版会）、2006年12月10日発行
- 国土地理院2万5千分の1地形図「三峰」

○YAMAP GPS データ

○ジオグラフィカ GPS データ

松本敏夫記



チチブドウダン



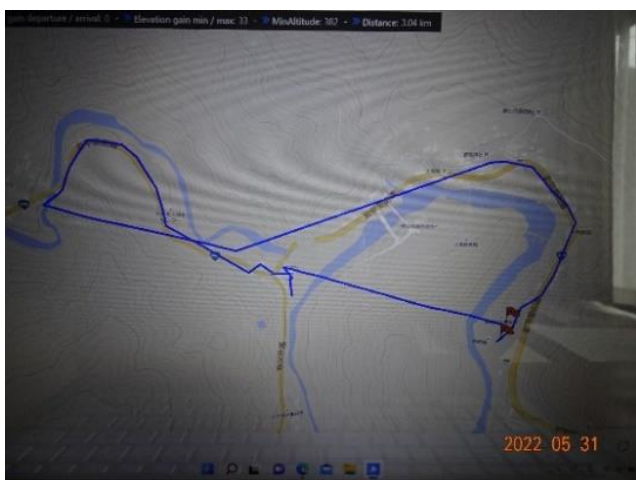
バイカウツギ



ホオの木

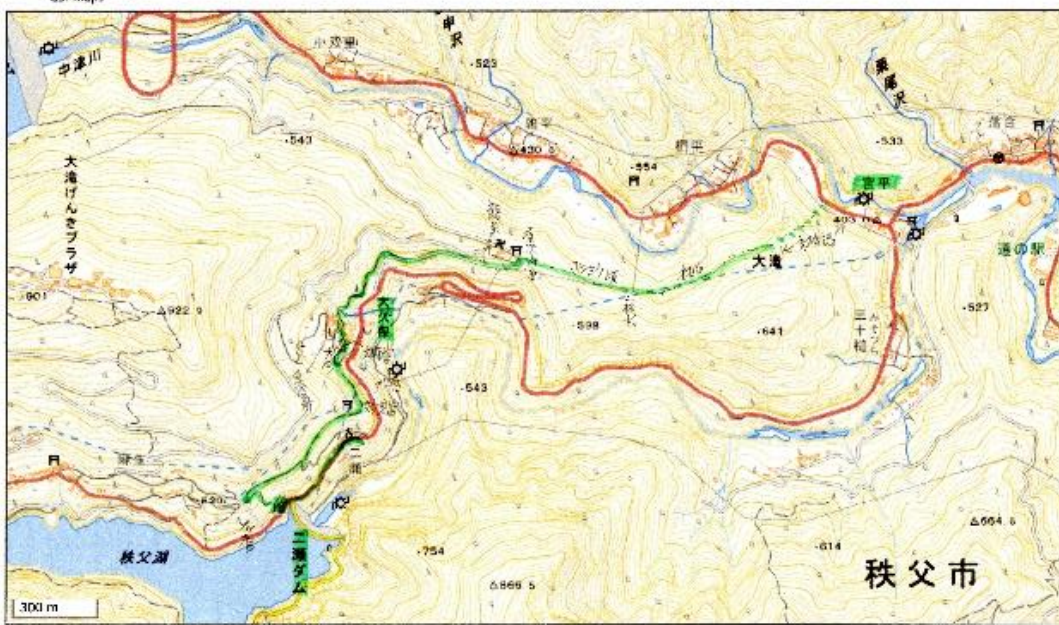


ゲートボール場にて



ジオグラフィカ GPS データ

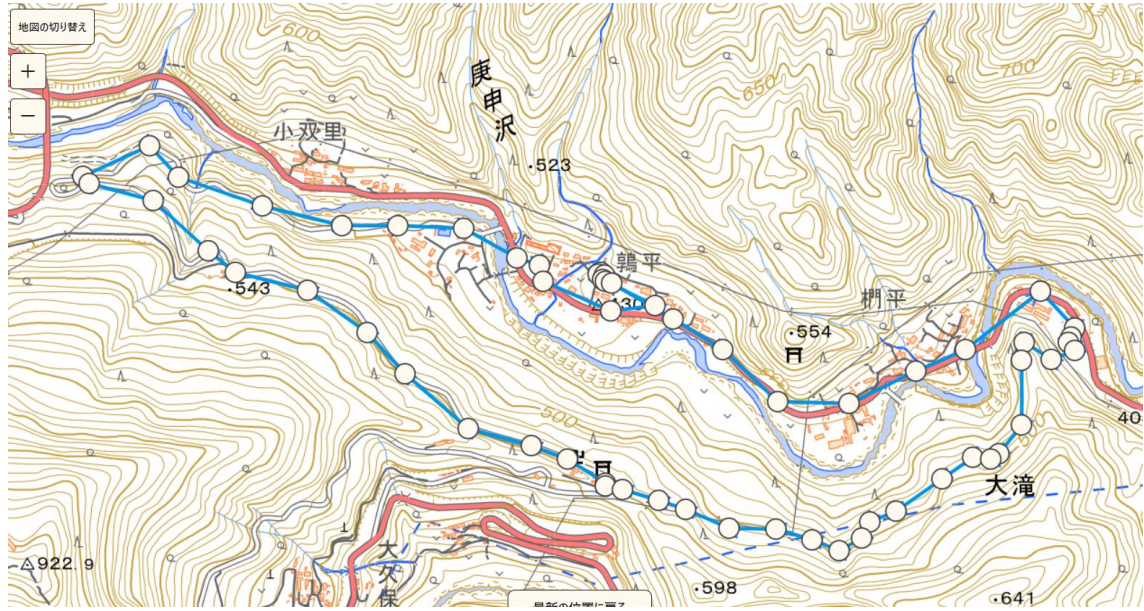
地理院地図



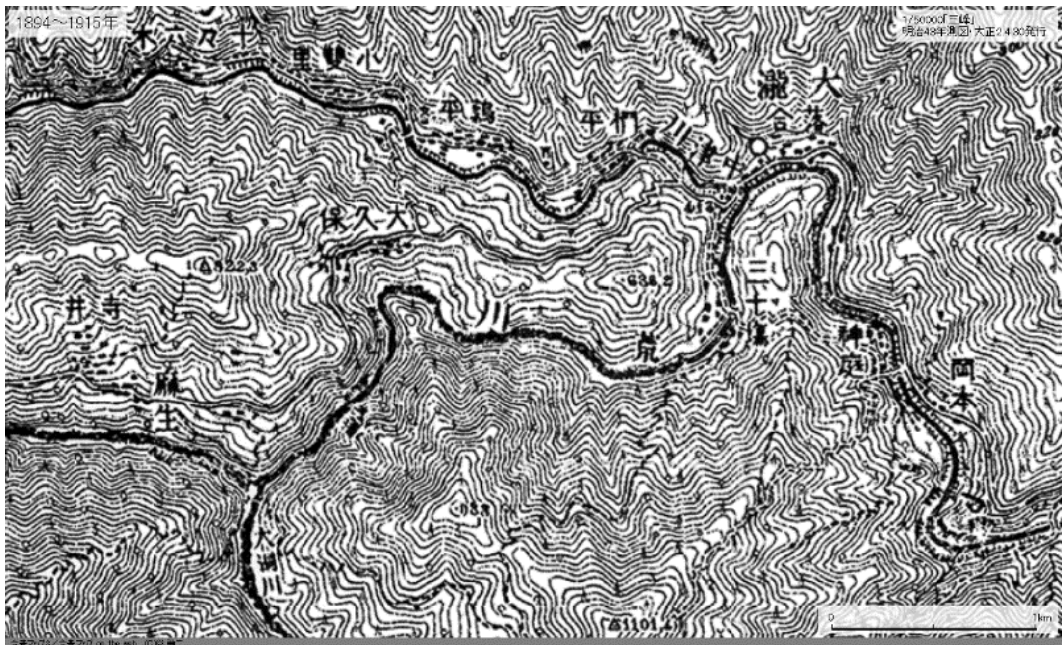
国土地理院 2万5千分の1地形図「三峰」



歴史の道調査報告書の地図



古道調査時の GPS データ (YAMAP)



明治 43 年測図 5 万分の 1 地形図「三峰」